

平成 26 年 10 月 24 日

国民資本主義の観点から見た国土強靱化

滋賀大学経済学部 准教授 柴山桂太

1. はじめに

- ・ 日本の二つの課題：「防災」と「地方活性化」
- ・ 防災・減災・迅速な復旧のためには、地域社会の建て直しが不可欠
- ・ 特に「一極集中」の是正が急務

2. 広がる地域格差

- ・ 東京都市圏への人口集中が顕著（図 1）
- ・ 他の先進国と比べても、人口と富の一極集中が顕著（図 2）：日本の人口と富の三割が東京-横浜都市圏に集中している
- ・ 経済的な格差・不平等は今や世界的な関心事（T・ピケティ『21 世紀の資本論』）となっている（図 3）：日本では「1%対 99%」の対立より、大都市と地方の断絶がこれから深刻な問題を引き起こす可能性が高い。
- ・ 地域内格差：地域内の中核都市への人口・富の集中（図 4）

3. 集中化のリスク

- ・ 自然災害（大震災）による都市機能の麻痺（いわゆる「カスケード障害」）
- ・ さらなる少子化：歴史的に見ても大都市は出生率が低い（図 5）
- ・ 地域社会の衰退がもたらす福祉水準の低下：医療・教育・治安・精神衛生などに与える影響
- ・ 予算配分をめぐる政治的対立：「大都市の反乱」

4. 格差の背景

- ・ グローバル化による貿易・投資環境の急速な変化
- ・ サービス経済化（経済の中心がサービス業に移行）：「密度の経済性」
- ・ 政策（公共事業の減少等）
- ・ 大都市の進化

5. 是正への動き

- ・ 地方再生に向けた自主的な取り組み
- ・ 価値観の変化（「ポスト・マテリアリズム」）
- ・ グローバル化の停滞（図 6）
- ・ ショックに強い地域経済：地域内の産業多様性と成長の関係（産業多様性が大きい地域の方が長期的な経済パフォーマンスが良い）